大分市立
野津原小学校
学校だより

のつはる

主体的に学び 行動できる児童の育成

第9号
令和8年8月6日
校長 水田 匡彦

■小学校の、その先の未来

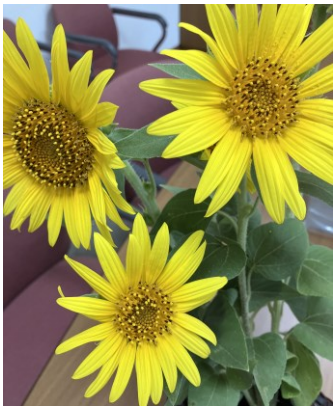
今の小学生も、中学、高校等を経て、いつの日か、社会人として働くようになります。その日がある日突然やって来るわけではありません。また、ずっと先ということでもありません。見通しを持つことが大切です。これからどういう人生になるか、簡単に整理してみました。そろそろ、自分で進路を選択したり、少しずつ自立したりすることが求められます。光陰矢の如し、です。この夏休みに、家族で将来について話をしてみては如何でしょうか。

- ●中学校　定期テスト、部活動、生徒会活動などがはじまります。中3では、進路選択を決断する必要があります。
- ●高校　文系、理系の選択があります。自分の強みを強固にしていく時期です。自立と責任が求められます。高校卒業後には、大きな進路選択に迫られます。仕事に直結する専門的なことを学ぶか、学問を深めたり、専門的な資格を取るか、早く社会に出て活躍するか、自分で決める必要があります。
- ●大学等　大学では自分で時間割を組み立てます。圧倒的な自由を手に入れる反面、自己責任が問われます。生活費を得るためにアルバイトをするなど、世界が一気に広がりを見せます。課題や問いを自ら定めて探求することが求められます。専門学校等では、専門的な知識を身に付けることができます。
- ●社会人　自立して、社会貢献します。自分の得意なことや技術を使って、社会に貢献し、報酬を手に入れます。組織の中で働きます。ひとりでする仕事はほぼありません。相手意識やコミュニケーション力は必須。この時点で、何かうまくいかなかった時、人や環境のせいにしない人になっていてほしいと願います。

■はじめての「あゆみ」

一学期終業式の後、子どもたちはそわそわしていました。この後、担任の先生からあゆみが手渡されるからです。運よく、4年生と1年生の教室で、あゆみが手渡される瞬間に立ち会うことができました。一人ひとりにあゆみが手渡される度、拍手が響きます。一学期、よくがんばったねという労いの拍手です。なぜか、どの子どももとびきりの笑顔であゆみを受け取っていました。全員にあゆみが手渡された後、一斉にあゆみを開きます。こっそり見る子ども、堂々と見る子ども、様々です。1年生は、初めてあゆみを手渡されて、心臓をどきどきさせながら、輝く目で見つめていました。担任の先生が、校長先生は全員のあゆみを見ていますよと説明してくれました。驚きの声もありましたが、はい、1年生から6年生まで全員のあゆみをしっかり見ています。一学期、よくがんばりましたね。

■「助けて」が言える人

野津原小学校の笑顔いっぱい宣言に、「友だちが困っていたら、優しく声をかけます」という文言があります。友だちの困りに気づき声かけできる相手意識を、ぜひ高めてほしいと願います。

では、自分が困ったらどうすればよいでしょうか。友だちから大丈夫と声をかけられるのを待つのではなく、自分から助けてと言える人になってほしいと願います。困ったときに、助けてと言えない人が多いようです。でも、困ったときはお互い様です。自分から助けを求めたり、支援を受け入れることも、立派な生きる力なのです。